

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市と周辺に見られる絶滅危惧植物

25. ホソバニガナ（キク科ニガナ属）

Ixeris makinoana (Kitam.) Kitam.

2014年9月

ため池などの湿地に希に生える多年草で、茎は直立あるいは斜上して高さ 30～65 cm、上部で分枝します。根出葉は緑白色、線披針形で長さ 5～12 cm、幅 3～8 mmで、茎葉はふつう 3個で基部は茎を抱きません。花は 4～11 月に咲き、頭花は黄色で小さく径 6～7 mm、総苞は長さ 4 mmで、そう果は褐色で長さ 3～4 mm、冠毛は淡汚褐色です。本種は冬期も地上部が枯死しない個体もあるのを観察しており、充実した個体は不定芽を茎葉の基部に生じ、本体は枯死し、茎が倒れたとき根を出し、植物体に成長する栄養繁殖も行います。分布は本州（関東以西）、四国、九州で、兵庫県での記録は西播と東播の 2 箇所（福岡ほか：兵庫県産維管束植物 8）のみです。兵庫県版レッドデータブック 2010 の A ランク、近畿版レッドデータブック 2001 の A ランク、日本の絶滅のおそれのある野生生物第 4 次レッドリストの EN ランクで非常に希少な植物です。写真は東播地域のため池湿地に生育するもので、種子発芽させた個体を系統保存している写真となっています。



自生地のホソバニガナ 11月14日



ホソバニガナの根出葉 11月14日



植栽個体(系統保存) 7月5日